

Title	SRI ( Social Responsibility Investment ) 普及のための日本版SRI- Indexの構築 - 邦銀の担うべき新たな役割と戦略の方向性 -
Sub Title	
Author	山下壮太郎(Yamashita, Soutarou) 中村洋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1738号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1738">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1738</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	中村 研究会	学籍番号	80029036	氏名	山下 壮太郎
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;"><b>SRI (Social Responsibility Investment) 普及のための日本版 SRI-Index の構築</b></p> <p style="text-align: center;">— 邦銀の担うべき新たな役割と戦略の方向性 —</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>欧米では個人金融資産のうち Social Responsibility Investment (SRI) と総称されるファンドに流入する資金が約 10% を占め、かつその割合は年々増加傾向にある。SRI は収益を追求するだけでなく社会的責任を立派に果たす企業に価値を見出し、資金供給を通じて社会的責任を果たす企業の活動を支援すると同時に社会的責任を果たさない企業に変革を促す活動である。日本における SRI は資金量も乏しく、投資家の裾野も狭く、社会的責任の捉え方も環境問題に偏重しており、企業の社会的責任に関する議論が十分に行われない中で試行錯誤が続いている。SRI 普及のためには、単なる欧米の追従に留まらない独自の価値観を反映しながら、どのような企業が社会的責任を果たしているのかを具体的に示すと共に Investment のパフォーマンス評価に用いるベンチマークを構築することが、重要であると思われる。また、間接金融主体の日本において日本社会の将来にコミットメントし、SRI 最大の担い手となり得る邦銀が SRI 普及のために果たすべき役割は大きいと思われる。</p> <p>こうした問題意識の下で、最初に社会的責任を果たしている企業と果たしていない企業を区別する資金供給先選定基準・パフォーマンス評価基準としての実用的な指数（日本版 SRI-Index）の具体的な構築に取り組んだ。その際、「どのような企業活動はどの程度社会的に望ましいと考えられているのか？」につきアンケート調査を行い、企業の社会的責任を評価する上では「豊かな生活提案、環境保護、従業員の労働環境改善等の指標が相対的に重視されること」、「米国で用いられる特定事業を排除する手法の利用に関しては工夫の余地が大きい」という結果を導き出した。</p> <p>加えてアンケート調査から「SRI への取り組みが銀行の差別化に有効である可能性が高い」との結論を得たことを踏まえ、「銀行は望ましい社会を実現する方向に役立つ資金の供給を担う」という役割を改めて認識した上で、「SRI による銘柄選択を活用したポートフォリオの再構築を行い、SRI をツールとして顧客と密なコミュニケーションを行うことで模倣不能な差別化を実現する」という 1 つの戦略の方向性を導き出した。</p>					